第３学年　英語科学習指導案

日　時　平成５年７月２日(金)
学　級　３年○組(男子 16、女子 12、合計 28 名)
指導者　北上北中学校　高　橋　明　浩

１，単元名　　Lesson 4　Emi's Homestay in the United States

２，単元設定の理由

◎言語材料・言語活動面

新出事項として　how to + 動詞原形＝『ーのしかた』,　ask + (人) + to +　動詞原形　　＝『人にーするよう頼む』,　It is + (形容詞) + to 動詞原形＝『ーするのはーだ』という to 不定詞の３つの用法を学ぶ。to 不定詞は２学年で学習している(Lesson5)。２学年では，不定詞の３つの用法（名詞的，形容詞的，副詞的）のほかに，未来形(be going to ー)，have to ー，would like to ーなど，多くの形が出てきた。そのため，生徒の中には「不定詞」ということばを聞いただけで拒否反応を示す者も少なくない。英語に対する意欲を盛り上げるためには，英語本来のおもしろさに加えて「使える」英語を教えること，実際に使わせてその有用性に気づかせることが大切であると考える。そこで，あまり文法用語を使わず,「こう言いたいときにはこのように言うのだ」という教え方をしている。

◎題材内容面

欧米人の文化や習慣について十分な知識をもたないで，言語としての英語だけに頼ることは，日本人が将来において欧米人とつきあっていく場合に相互理解の障害となりやすい。本単元では，絵美がアメリカのヒルさん宅にホームスティするという場面を設定して，本文の中でアメリカの家の間取り，洗濯機など電化製品の使い方，食生活と買い物，英文手紙の書き方の４つについて言及している。生徒により多くの知識を与えるため，これらの中身を膨らませて指導していきたい。

３，生徒の実態と対策

学級全体の雰囲気として，比較的落ち着いていて話もよく聞き，授業はやりやすい。ただ，あいさつや質問に対する答えの声が小さく，分かっていても発言しない生徒が多い。上位の生徒と下位の生徒の理解の差が激しく，上位の生徒は分かっているのに「分からないふり」をしている一方，下位の生徒は質問することもなく意欲を失い，結果として生徒が助け合う場面が少ない。

そこで，先月から『グループ学習』を取り入れている。グループは２ー３人の同性で構成し（男女の学力差が大きく，あまり話ができないように見受けられたため)，各グループには上位・中位・下位の生徒を均等に配置し,「だれに指名されても答えられるよう,教えあっておくこと」と指示している。下位の生徒はほとんど学習意欲を示さず，一人一人にじっくり指導する時間を確保するのが難しいために取った方法である。さらに本年度は，生徒のアンケートで希望の多かったプリント学習を取り入

れている。授業中は，グループ内での教え合いだけは徹底させているため，下位の生徒も少しずつ授業に参加してきている。

4，単元の目標

◆言語材料・言語活動面

(1) how to ～（～のしかた）や，what to ～（何を～すればよいか）などについて理解し，それを使って表現できる。

(2) ask + 人 + to ～（人に～するよう頼む）の言い方を理解しそれを使って表現できる。

(3) have been to ～（～に行ったことがある）の意味が理解できる。

(4) It is + 形容詞 + to ～.（～するのは‥‥だ）の言い方を理解し，それを使って表現できる。

◆題材内容面

(1) ホームステイ初日の絵美とスーザンの対話を通して，アメリカの一般家庭の間取りとその理由が理解できる。

(2) 二人の対話から洗濯のしかたなどについて理解できる。

(3) 二人の料理についての対話から，ホームステイに入るときのあるべき姿が想像できる。また，電話での対話が理解できる。

(4) お別れの様子と，感謝の手紙の内容が理解できる。

5，指導計画（９時間）

Part 1 ： １．５時間

Part 2 ： ２時間

Part 3 ： ２．５時間（本時１．５/２．５）

Part 4 ： ２．５時間

単元テスト：０．５時間

6，本時の指導

(1) 題材

［ask＋人＋to 動詞原形］（人に～するよう頼む）の言い方の復習と，教科書 p.26 本文の理解・音読

(2) 本時の目標（下位行動目標）

① 本文を，場面に即して音読できる。

② 本文の内容について書かれた英文に対し，英語で答えられる。

③ 本文の内容について述べられた英文を聞いて，その正誤が判断できる。

④ グループ内で教え合ってプリントを解くことで，本文の内容が分かる。

⑤ 本文を視聴して，絵美とヒル夫人の会話の内容が理解できる。

⑥　新出単語の意味と発音が分かる。

⑦　［ask＋人＋to 動詞原形］（人に〜するよう頼む）が表す内容を理解できる。

(3) 指導の構想

本時では，細かく段階を踏んで本文の理解をめざし，最終的には絵美が日本食を作る意気込みを理解し，できれば，それが伝わるように音読できるまでをねらう。目標文［ask＋人＋to 動詞原形］（人に〜するよう頼む）は，構文が少々複雑なため，復習に多少の時間を割く。生徒のグループ毎に教え合うことを念頭におき，作業の場面ではいつも通り教え合い学習を行わせて，全く活動しない生徒がいないような工夫をしていきたい。さらに，ホームステイをするときは『家族の一員として』行動すべきことなどに気づかせたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1、あいさつ			
	2、スモールトーク	・教師の質問に英語で答える。	5	
	3、新出文型の復習	・プリントを参照しながら新出文型の復習をする。(⑦)	8	・プリント No. 12 使用 ・必要に応じて黒板使用
	4、新出語句の復習	・フラッシュカードを見て、教師の後について発音する。(⑥)	5	・フラッシュカード
展開	5、本文の理解確認	・本文のテープとピクチャーカードから本文の概要を理解する。(⑤)	3	・カセットテープ ・ピクチャーカード
		・教科書を参照しながらプリントの日本語を完成させる。(④)	5	・グループでの教え合いを奨励する
		・教師の指名により，プリントの空欄に入る日本語を発表する。	5	・グループ毎にできた，できないをチェック
	6、本文の英文確認と文化面の話	・教師の説明を聞いて，必要ならメモをとる。	6	
	7、T/Fチェック	・教師の言う英文が本文の内容と合っていたらT，違うならFをプリントに記入する。(③)	3	・解答後，挙手で達成度をチェック
	8、Q＆A	・プリントの英問に英語で答える。(②)	4	・グループの得点とする ・終わったら p. 25 のA
	9、本文の音読	・単語毎→訳しながら文節毎→文毎 ・テープの後について（①)	5	・教科書 ・カセットテープ
終末	10、まとめ 11、あいさつ	・ワークをやっておく指示を受ける ・次時の予告を聞く	1	

(5) 評価の観点とその方法

・目標文の意味が理解できているか。(復習でいろいろな英文を言わせて確認)

・本文の内容が理解できたか。(発表で確認)

・意欲的に授業やグループ活動に参加できたか。(机間巡視で確認)